
2022年度第2四半期決算 及び
2022年度業績見通し

説明資料

帝人株式会社
2022年11月7日

今回公表のポイント

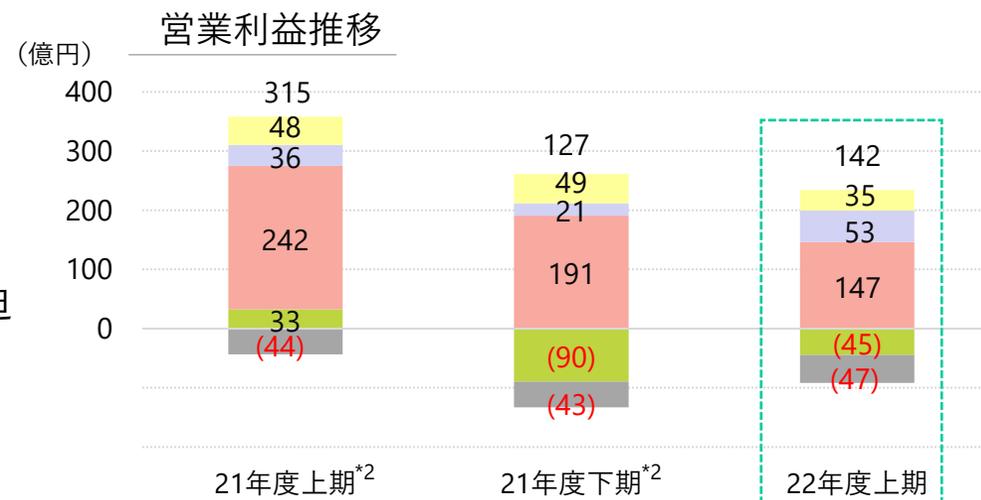
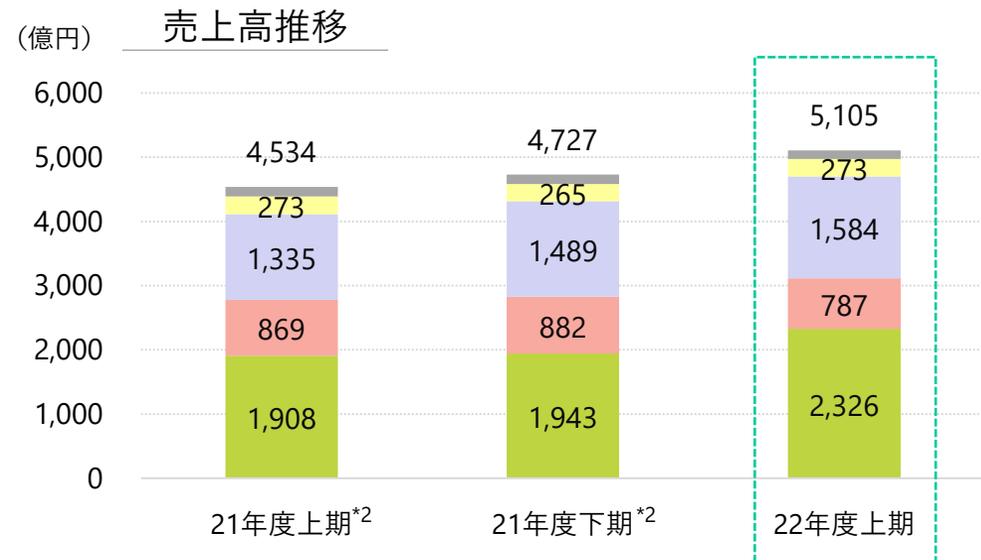
■上期実績（前年同期対比）

- 堅調な需要を背景とした販売増、原燃料価格高騰に対応した販売価格改定および為替影響等で、売上高は12.6%増の5,105億円となるも、営業利益は54.8%減の142億円
 - マテリアル：自動車用途・航空機用途を中心とした販売量の増加や為替影響等が利益貢献するも、米欧での労働需給逼迫による生産性悪化、中国ロックダウン影響、原燃料価格高騰および物流費増等で減益となり営業赤字（▲45億円）
 - ヘルスケア：医薬品「フェブリク」の後発品が6月に参入した影響および薬価改定等で減益
- 四半期純利益は海外子会社の赤字幅拡大に伴う税負担率の上昇により、64.9%減の76億円

■通期業績見通し（前回見通し*1対比）

- 売上高1兆500億円（前回見通し：1兆円）、営業利益250億円（前回見通し：500億円）へ見通しを修正（增收・減益）
 - マテリアル：欧州天然ガス価格のさらなる高騰、米欧拠点での労働需給の逼迫による生産性悪化等により大幅減益の見通し
 - ヘルスケア：想定以上の「フェブリク」後発品参入影響により減益の見通し
- 当期純利益見通しを160億円に修正（前回見通し：280億円）
- 期末配当予想を12.5円に修正（前回見通し：27.5円）し、年間配当見通しは40円（前回見通し：55円）になる見込み

■ マテリアル ■ ヘルスケア ■ 繊維・製品 ■ IT ■ その他



*1 2022年8月8日公表

*2 2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

当社の主要ターゲット市場の前提（2022年度）

需要は全般的に堅調な状況が継続する見通し

事業	市場	主な地域	上期実績	下期見通し	
マテリアル	アラミド	自動車	欧州 米国	<ul style="list-style-type: none"> 特に欧州での高級車/EV向けタイヤ需要が拡大 米国も引き続き需要は堅調 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き需要は堅調に推移
		産業資材	欧州 米国	<ul style="list-style-type: none"> 光ファイバー用途は高水準な需要が継続 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き需要は堅調に推移
		防弾・防護	欧州 米国	<ul style="list-style-type: none"> 防弾・防護とも需要は堅調 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き需要は堅調に推移
	樹脂	事務機	中国 アジア	<ul style="list-style-type: none"> 中国ロックダウンによる部品調達難および需要減により、顧客の稼働が減少 	<ul style="list-style-type: none"> 需要減が継続
		自動車	日本、中国 アジア	<ul style="list-style-type: none"> 半導体/電子部品不足、および中国ロックダウンを受け、顧客の稼働が減少 	<ul style="list-style-type: none"> 中国ロックダウン影響の解消により需要回復を見込む
	炭素繊維	航空機	欧州 米国	<ul style="list-style-type: none"> 欧米は旅客機利用者数の緩やかな回復傾向が継続 	<ul style="list-style-type: none"> 欧米を中心に旅客需要の回復傾向の継続を見込む
	複合成形	自動車	米国、欧州 中国	<ul style="list-style-type: none"> 半導体不足やサプライチェーンの混乱影響を受け、OEMでの生産制約が継続 	<ul style="list-style-type: none"> 需要堅調な中、半導体不足によるOEMでの生産制約は徐々に解消を見込む

- 見通しに織り込み済み：2Q末並みの天然ガス・原材料価格水準が年度にわたって継続
- 見通しに織り込まず：グローバルでの景気後退影響、COVID-19の再蔓延による中国再ロックダウン影響等

当社の主要ターゲット市場の前提（2022年度）

事業	市場	主な地域	上期実績	下期見通し
ヘルスケア	医薬品	日本	<ul style="list-style-type: none"> 高尿酸血症・痛風患者数は拡大基調だが、後発品参入により市場規模（薬価売上）は縮小 糖尿病薬市場は微増も、厳しい競争環境が継続 COVID-19影響により病院では訪問規制が継続し、e-プロモーション強化が継続 	
	在宅医療		<ul style="list-style-type: none"> 在宅酸素療法（HOT）市場では、入院抑制により在宅療養へのシフトが継続 在宅持続陽圧呼吸療法（CPAP）市場は拡大継続、検査数は緩やかな回復基調継続 	
繊維・製品	衣料繊維	欧米・中国 日本	<ul style="list-style-type: none"> 欧米の消費は回復、中国は都市封鎖の影響もあるも、市況は堅調に推移 国内は行動規制の緩和により消費は回復傾向 	<ul style="list-style-type: none"> 欧米はインフレ・利上げにより、中国はゼロコロナ政策により市況は不透明 国内は円安で物価上昇し消費マインド低下
	産業資材	日本 中国	<ul style="list-style-type: none"> 自動車用途は回復基調であるが、半導体不足影響あり 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体不足による顧客稼働減は徐々に正常化
IT	電子コミック	日本	<ul style="list-style-type: none"> 電子コミックにおける海賊版サイトの影響が軽減される中、市場の成長は継続 	<ul style="list-style-type: none"> 海賊版サイトの影響は残るものの、市場の成長は継続

- 見通しに織り込み済み：2Q末並みの天然ガス・原材料価格水準が年度にわたって継続
- 見通しに織り込まず：グローバルでの景気後退影響、COVID-19の再蔓延による中国再ロックダウン影響等

1. 2022年度第2四半期決算 P.5
2. 2022年度業績見通し P.13
3. 参考資料 P.23

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。当資料に含まれている医薬品、医療機器、再生医療等製品（開発中のものも含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的とするものではありません。

本資料は2022年11月7日午前11時30分に公表した弊社決算に基づくものです。

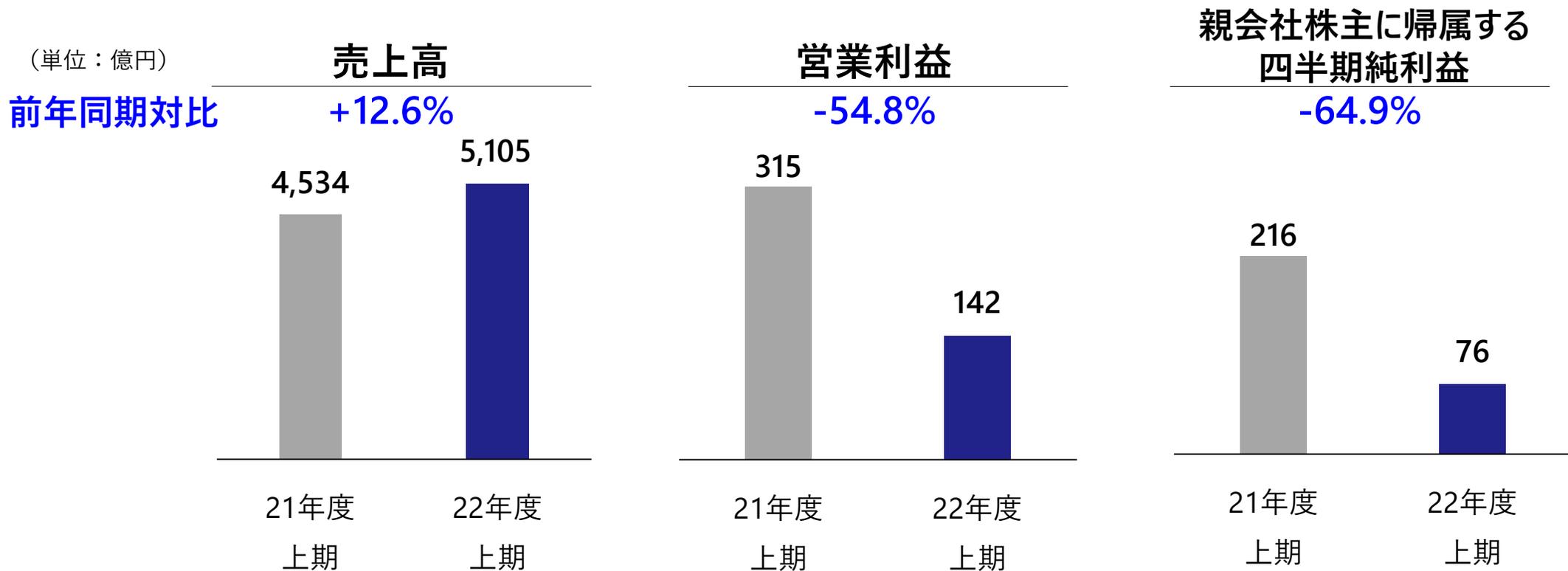
1. 2022年度第2四半期決算

◆ 実績ハイライト [前年同期対比]

【売上高】 マテリアルでの堅調な需要を背景とした自動車用途・航空機用途の販売量増加に加え、原燃料価格高騰に対応した販売価格改定および為替影響等により、全体で12.6%の増収

【営業利益】 マテリアルはアラミドでの前年同期の大型定修からの反動による操業度改善や複合成形の新大型プログラムの本格化および為替影響等が利益貢献するも、米欧拠点での労働需給の逼迫による生産性悪化、中国ロックダウンによる販売減影響、原燃料価格高騰および物流費増等で減益となり営業赤字。ヘルスケアは医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売減や薬価改定等で減益。全体では54.8%の減益

【四半期純利益】 営業利益減に加え、海外子会社の赤字幅拡大に伴う税負担率の上昇により、64.9%の減益



◆ 実績サマリー [前年同期対比]

	(億円)			
	21年度 上期	22年度 上期	差異	増減率
売上高	4,534	5,105	+571	+12.6%
営業利益	315	142	-172	-54.8%
営業外損益	12	58	+46	+396.4%
経常利益	326	200	-126	-38.7%
特別損益	14	-2	-17	-
税金等調整前 四半期純利益	341	198	-143	-42.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	216	76	-140	-64.9%
ROE ^{*1}	10.4%	3.4%	-7.0%	-
営業利益ROIC ^{*2}	7.9% ^{*3}	3.4%	-4.6%	-
EBITDA ^{*4}	651	515	-136	-20.9%

*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出

(*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*1、*2は年換算後の数値

*3 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

	(億円)			
	21年度 上期	22年度 上期	差異	増減率
設備投資 ^{*5}	1,660 ^{*7}	264	-1,396	-84.1%
(設備投資 調整後※)	(336) ^{*7}			
減価償却費 ^{*6}	336	372	+36	+10.8%
研究開発費	141	156	+15	+10.6%

※糖尿病薬販売権等承継による無形固定資産増（1,324億円）を除く

中間配当は予定通りの1株当たり27.5円で決定

◇為替・市況燃料価格	21年度 上期	22年度 上期	
	PL換算レート 円/米ドル	110	134
	円/ユーロ	131	139
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)	69	102	
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)	36	156	

*4 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*5 設備投資には無形固定資産の取得を含む (M&Aは含まず)

*6 のれん償却含む

*7 2021年11月8日公表の「2021年度第2四半期決算及び2021年度業績見通し」では、設備投資「1,664億円」、設備投資調整後「340億円」としていたが記載誤りであったため、今回資料にて正しい数値に置き換え

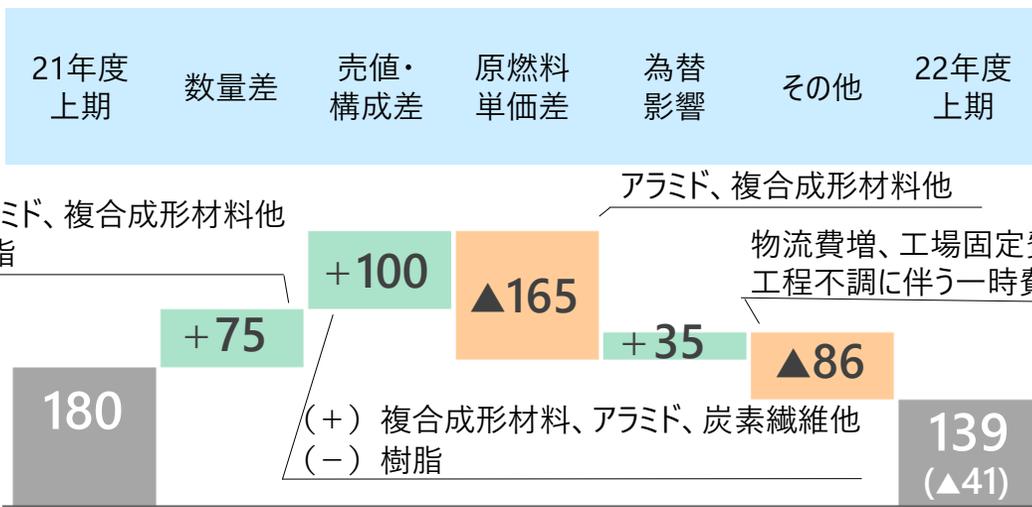
◆ マテリアルセグメント [前年同期対比]

(億円)

	21年度 上期	22年度 上期	前年同期 との差異	増減率
売上高	1,908	2,326	+417	+21.9%
EBITDA	180	139	-41	-22.9%
減価償却費	147	183	+36	+24.5%
営業利益	33	-45	-77	-
営業利益ROIC	2%	-2%	-4%	-

< EBITDA増減内訳 >

(億円)



自動車用途・航空機用途を中心に需要堅調で販売量が増加。為替影響による収益押し上げ効果はあったものの、米欧拠点での労働需給逼迫による生産性悪化、中国ロックダウンによる工場稼働率低下、原燃料価格高騰および物流費増等が利益に影響

■ アラミド繊維 (増収・増益)

- 労働需給の逼迫やサプライヤーの主要消耗品供給制約等による生産性悪化等で販売量が減少するも、前年同期の大型定修実施からの操業度改善や為替影響が収益に貢献
- 天然ガス価格上昇がコストに影響しており、販売価格改定を実施

■ 樹脂 (減収・減益)

- 中国ロックダウンおよびその後の中国経済減速の影響を受けて、工場の稼働率が低下し販売量が減少

■ 炭素繊維 (増収・増益)

- 用途全般において需要は堅調
- 航空機向けの販売量が増加したことにより、販売構成が改善
- 主原料であるANの価格高騰を受けて、販売価格改定を実施

■ 複合成形材料 (増収・減益)

- 半導体を含む原材料や部品の不足等により、OEMの生産休止が継続したものの、新大型プログラムの販売本格化もあり、販売量が増加
- 原材料価格の高騰が継続しており、販売価格改定交渉を実施し、複数のOEMと妥結
- 労働需給逼迫による生産性悪化が継続
- 米国一部工場での設備故障による一時的な生産性悪化および追加費用の発生

■ 電池部材 (増収・増益)

- セパレータのスマートフォン向けの需要が好調で、新規モデルへの採用も進展

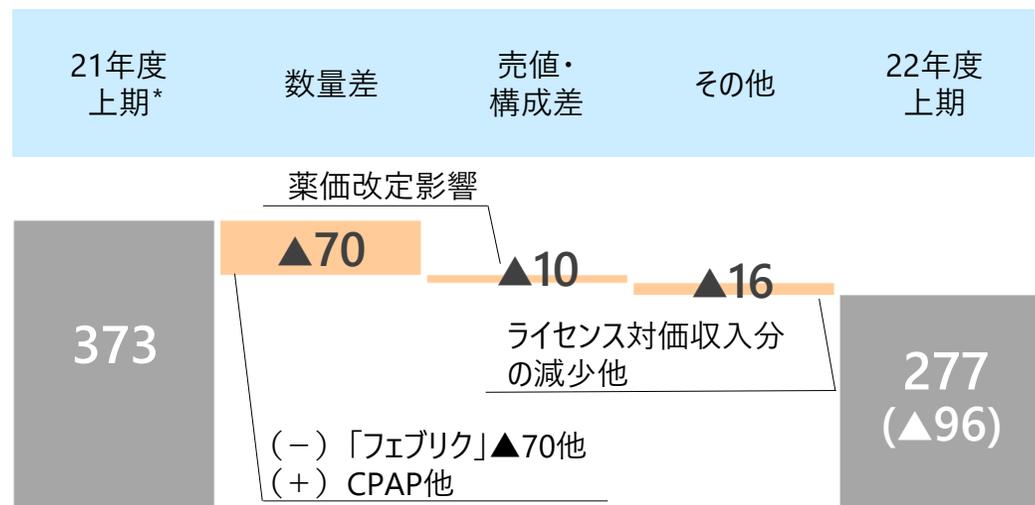
◆ ヘルスケアセグメント [前年同期対比]

(億円)

	21年度 上期*	22年度 上期	前年同期 との差異	増減率
売上高	869	787	-82	-9.4%
EBITDA	373	277	-96	-25.7%
減価償却費	131	130	-0	-0.2%
営業利益	242	147	-95	-39.4%
営業利益ROIC	22%	16%	-6%	-

< EBITDA増減内訳 >

(億円)



糖尿病治療剤の販売や在宅医療機器のレンタルは堅調
一方で、医薬品「フェブリック」は、6月の後発品参入により販売量が減少

■ 医薬品

- 2022年6月に「フェブリック*1」の後発品が参入し販売量減少
- 糖尿病治療剤の販売が堅調に推移
- 「ソマチュリン*2」や「ゼオマイン*3」の販売量が順調に拡大
- 薬価改定影響および前年同期のライセンス対価収入計上の反動あり
- 2022年8月に骨粗鬆症治療薬「オスタバロ 1.5mg」の製造販売承認を取得

■ 在宅医療

- HOT：COVID-19向け病床確保のための入院抑制・在宅療養へのシフトが継続している中、高い水準でレンタル台数を維持
- CPAP：検査数は緩やかな回復基調にあり、レンタル台数増加が継続

*1 高尿酸血症・痛風治療剤

*2 先端巨大症・下垂体性巨人症/甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍/腺・消化管神経内分泌腫瘍治療剤

ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharma (仏) の登録商標です

*3 上肢・下肢痙縮治療剤。ゼオマイン®/Xeomin®は、Merz Pharma GmbH & Co, KGaA (独) の登録商標です

*2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。
それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

◆ 繊維・製品セグメント [前年同期対比]

(億円)

	21年度 上期	22年度 上期	前年同期 との差異	増減率
売上高	1,335	1,584	+249	+18.7%
EBITDA	67	87	+20	+29.8%
減価償却費	31	34	+3	+9.4%
営業利益	36	53	+17	+47.8%
営業利益ROIC	6%	7%	+2%	-

◆ ITセグメント [前年同期対比]

(億円)

	21年度 上期	22年度 上期	前年同期 との差異	増減率
売上高	273	273	-0	-0.1%
EBITDA	53	38	-15	-28.0%
減価償却費	6	4	-2	-33.7%
営業利益	48	35	-13	-27.3%
営業利益ROIC	63%	44%	-20%	-

■ 繊維・製品セグメント

- 産業資材分野：水処理フィルター向けポリエステル短繊維、自動車関連部材、人工皮革は堅調
- 衣料繊維分野：欧米・中国向けのテキスタイル・衣料品の販売が好調に推移
- 原燃料価格や物流費の高騰、円安影響による仕入れコスト上昇が業績に影響したものの、繊維原料・テキスタイルの販売価格改定を遂行

■ ITセグメント

- ネットビジネス分野では、電子コミックサービスにおいて広告宣伝活動の強化を継続
- ITサービス分野では、企業向けは堅調に推移した一方で、ヘルスケア事業がCOVID-19影響あり

■ その他 エンジニアリング事業、埋込型医療機器事業、再生医療事業 等

- 人工関節・吸収性骨接合材等の埋込型医療機器事業において、2022年2月のKISCO（株）からの外傷・脊椎事業買収の影響もあり販売が順調に伸長
- 再生医療事業の（株）ジャパン・ティッシュエンジニアリング（J-TEC）において、自家培養軟骨「ジャック」、自家培養口腔粘膜上皮「オキュラル」及びCDMO（受託）事業の売上が拡大した一方、自家培養表皮「ジェイス」の売上が減少した影響等により、前年同期対比減収減益

◆ 営業外損益 [前年同期対比]

	(億円)		
	21年度 上期	22年度 上期	差異
受取利息	2	5	+2
受取配当金	6	8	+1
持分法による投資利益	29	26	-4
デリバティブ評価益	8	114	+106
投資事業組合運用益	-	6	+6
その他	5	4	-1
営業外収益 計	51	162	+111
支払利息	15	27	+12
為替差損	4	66	+63
デリバティブ評価損	2	5	+2
投資事業組合運用損	4	-	-4
その他	13	6	-7
営業外費用 計	39	104	+65
営業外損益 計	12	58	+46

◆ 特別損益 [前年同期対比]

	(億円)		
	21年度 上期	22年度 上期	差異
投資有価証券売却益	40	12	-27
その他	2	0	-2
特別利益 計	42	13	-29
固定資産除売却損	9	7	-3
投資有価証券評価損	-	3	+3
減損損失	16	1	-15
その他	2	4	+2
特別損失 計	27	15	-13
特別損益 計	14	-2	-17

◆ 財政状態 [前年度末対比]

				(億円)
	22年 3月末	22年 9月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	12,076	13,051	+975	+493
負債	7,428	8,222	+795	+301
(内 有利子負債)	4,852	5,447	+595	+224
純資産	4,648	4,829	+180	+192
D/Eレシオ ^{*1}	1.10	1.19	+0.09	-
D/Eレシオ (資本性調整後) ^{*2}	0.97	1.06	+0.09	-

◇ 総資産 増減内訳

				(億円)
	22年 3月末	22年 9月末	差異	
現金及び預金	1,345	1,591	+246	
売上債権 ^{*4}	1,968	1,979	+10	
棚卸資産	1,646	2,027	+381	
固定資産	5,063	5,265	+202	
投資有価証券	850	871	+21	
その他	1,204	1,319	+115	
総資産 計	12,076	13,051	+975	

◆ キャッシュ・フローの状況 [前年同期対比]

				(億円)
	21年度 上期	22年度 上期	差異	
営業活動	339	321	-17	
投資活動	-1,636 ^{*3}	-298	+1,337	
フリー・キャッシュ・フロー	-1,297	23	+1,320	
財務活動他	950	223	-728	
現金及び現金同等物増減	-347	246	+592	

◇ BS換算レート

	22年	22年
	3月末	9月末
円／米ドル	122	145
円／ユーロ	137	142

*1 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

*2 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

*3 糖尿病薬販売権等承継 (無形固定資産増 (1,324億円)) 等

*4 契約資産含む

2. 2022年度業績見通し

◆ 通期業績見通しハイライト [前年度対比、前回見通し*対比]

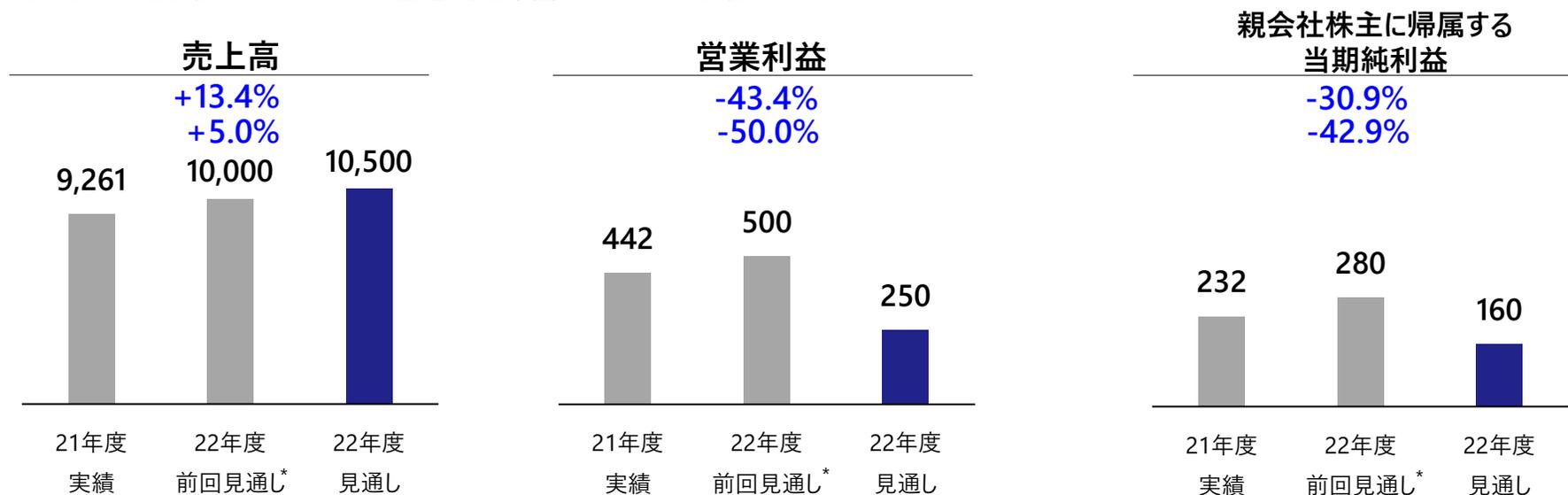
【前年度対比】

- 売上はマテリアルでの堅調な需要を背景とした生産能力増強、新工場稼働に伴う販売量増効果、原燃料価格高騰に対応した販売価格改定、為替影響等により増収となる見通し
- 営業利益はマテリアルでの欧州天然ガス価格の高騰、米欧拠点での労働需給逼迫による生産性悪化、ヘルスケアでの医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減影響等で営業減益となる見通し

【前回見通し*対比】

- 売上はマテリアルでの円安の進展および原燃料価格高騰に伴う販売価格改定等により微増の見通し
 - 営業利益はマテリアルでの米欧拠点での労働需給逼迫による生産性悪化、欧州天然ガス価格のさらなる高騰、ヘルスケアでの医薬品「フェブリク」の後発品への想定を上回るスピードでの切り替え等により営業減益となる見通し
- 見通しに織り込み済み：2Q末並みの天然ガス・原材料価格水準が年度にわたって継続
- 見通しに織り込まず：グローバルでの景気後退影響、COVID-19の再蔓延による中国再ロックダウン影響等

(単位：億円)

前年度対比
前回見通し*対比

前提条件

	21年度	22年度 前回見通し*	22年度 見通し
通期平均為替レート			
円/米ドル	112	134	137
円/ユーロ	131	138	139
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)	78	100	97
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)	69	122	166

2022年度配当金見通し (前回見通し*から期末配当を変更)

中間 27.5円/株 (決定), 期末 12.5円/株, 年間 40円/株

(前回見通し*: 中間 27.5円/株 期末27.5円/株 年間55円/株)

(21年度: 中間 27.5円/株 期末27.5円/株 年間55円/株)

◆ 通期業績見通しサマリー [前年度対比、前回見通し*1対比]

(億円)

	21年度 実績	22年度 見通し	差異	増減率	22年度 前回見通し*1	前回見通し との差異	増減率
売上高	9,261	10,500	+1,239	+13.4%	10,000	+500	+5.0%
営業利益	442	250	-192	-43.4%	500	-250	-50.0%
経常利益	497	290	-207	-41.6%	520	-230	-44.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	232	160	-72	-30.9%	280	-120	-42.9%
ROE *2	5.5%	4%	-2%		6%	-2%	
営業利益ROIC *3	5.5% *9	3%	-3%		6%	-3%	
EBITDA *4	1,130	1,000	-130		1,250	-250	
フリー・キャッシュ・フロー	-1,087 *10	150	+1,237		300	-150	
設備投資 *5	2,008 *10	700	-1,308		700	0	
減価償却費 *6	688	750	+62		750	0	
研究開発費	333	340	+7		340	0	
D/Eレシオ *7	1.10	1.1	+0.0		1.0	+0.1	
D/Eレシオ (資本性調整後) *8	0.97	1.0	+0.0		0.9	+0.1	

*1 2022年8月8日公表

*2 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

3 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出 (*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*4 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出 *5 設備投資には無形固定資産の取得を含む (M&Aを含まず)

*6 のれん償却含む *7 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

*8 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

*9 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

*10 糖尿病薬販売権等承継による無形固定資産増 (1,324億円) を含む

◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比、前回見通し*1対比]

					(億円)	
	21年度 実績 ^{*2}	22年度 見通し	差異	増減率	22年度 前回見通し ^{*1}	前回見通し との差異
売上高						
マテリアル	3,851	4,850	+999	+25.9%	4,600	+250
ヘルスケア	1,751	1,550	-201	-11.5%	1,550	0
繊維・製品	2,825	3,200	+375	+13.3%	2,950	+250
IT	538	600	+62	+11.6%	600	0
その他	296	300	+4	+1.3%	300	0
合計	9,261	10,500	+1,239	+13.4%	10,000	+500

					(億円)	
	21年度 実績 ^{*2}	22年度 見通し	差異	増減率	22年度 前回見通し ^{*1}	前回見通し との差異
営業利益						
マテリアル	-57	-85	-28	-	155	-240
ヘルスケア	433	235	-198	-45.7%	260	-25
繊維・製品	56	95	+39	+68.4%	85	+10
IT	97	100	+3	+3.1%	100	0
その他	-23	-30	-7	-	-30	0
消去又は全社	-64	-65	-1	-	-70	+5
合計	442	250	-192	-43.4%	500	-250

営業利益見通しの方向感

	前年度対比		前回見通し*1対比	
全体		・営業減益の見通し		・営業利益下方修正
-マテリアル		・米欧拠点での労働需給逼迫による生産性悪化 ・原燃料価格のさらなる高騰		・米欧拠点での労働需給逼迫による生産性悪化 ・欧州天然ガス価格のさらなる高騰
-ヘルスケア		・医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減影響		・医薬品「フェブリク」後発品への想定を上回るスピードでの切り替え
-繊維・製品		・産業資材の自動車用途・衣料繊維はCOVID-19・海外工場ロックダウンからの回復での販売量増		・販売構成・スプレッドの改善
-IT		・売上増および本社移転に伴う一時費用減を見込むが、マーケティング強化によるコスト増あり		・前回見通しから変化なし

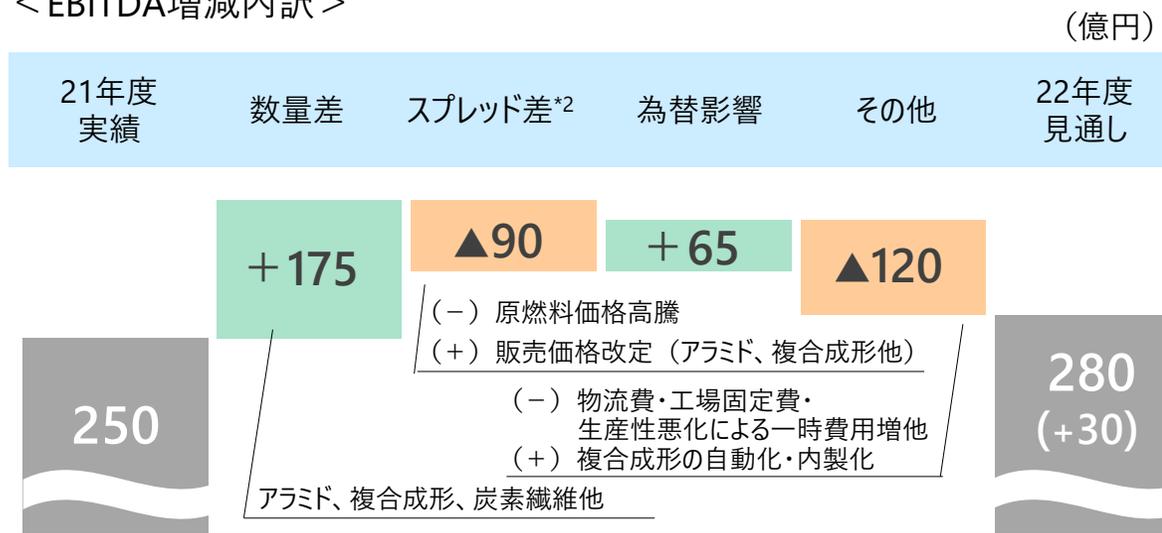
*1 2022年8月8日公表

*2 2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

◆ マテリアルセグメント [前年度対比、前回見通し*1対比]

< EBITDA増減内訳 >

	22年度見通し (億円)				差異	22年度 前回見通し*1との差異 (億円)	
	21年度実績	22年度見通し 上期	22年度見通し 下期	22年度見通し 計		22年度 前回見通し*1	前回見通し*1との差異
売上高							
高機能材料	2,735	1,511	1,589	3,100	+365	3,000	+100
複合成形材料	1,116	814	936	1,750	+634	1,600	+150
計	3,851	2,326	2,524	4,850	+999	4,600	+250
EBITDA	250	139	141	280	+30	520	-240
減価償却費	307	183	182	365	+58	365	0
営業利益	-57	-45	-40	-85	-28	155	-240
営業利益ROIC	-2%	-2%	-2%	-2%	-0%	4%	-6%



営業利益見通しの方向感

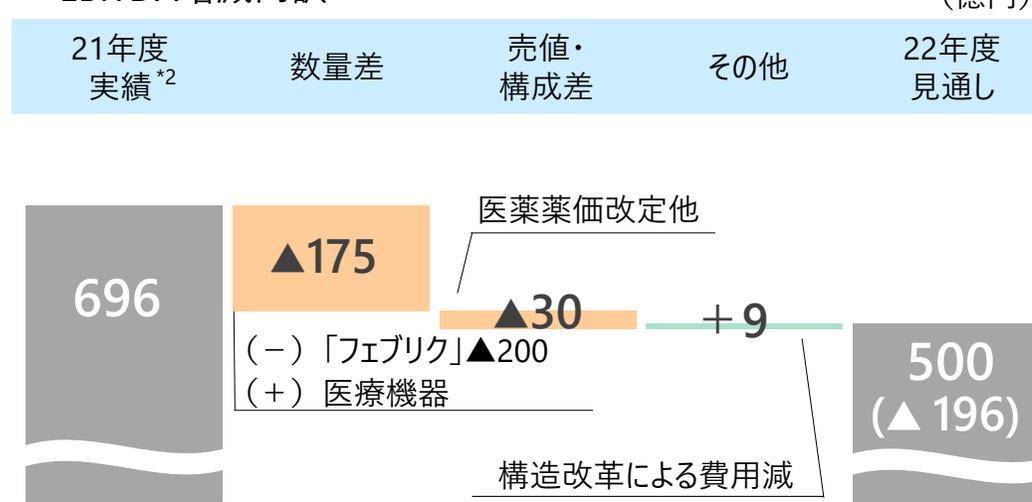
サブセグメント	前年度対比	前回見通し*1対比
アラミド	<ul style="list-style-type: none"> 原燃料価格の更なる高騰により、販売価格改定を進めるも採算性悪化 欧州の労働需給引き締めやサプライヤーの主要消耗品供給制約等による生産性悪化で在庫が逼迫 大型定修とその期間延長および原料工場停電による生産停止の影響解消 	<ul style="list-style-type: none"> 想定以上の原燃料価格の高騰により、販売価格改定を進めるも採算性悪化 欧州の労働需給引き締めやサプライヤーの主要消耗品供給制約等による生産性悪化で在庫が逼迫
樹脂	<ul style="list-style-type: none"> 期首繰越在庫影響、中国ロックダウンおよびその後の経済減速影響、物流費高騰 	<ul style="list-style-type: none"> 中国ロックダウン後の経済減速影響
炭素繊維	<ul style="list-style-type: none"> 航空機需要の堅調な回復に伴う販売量増 北米新工場稼働による販売量増 	<ul style="list-style-type: none"> 販売構成の改善 (航空機向け増加) 想定以上の円安による為替影響
複合成形材料	<ul style="list-style-type: none"> 米国一部工場での設備故障による一時的な生産性悪化および追加費用の発生 米国の労働需給逼迫による生産性悪化継続 大型新プログラムによる販売量増加、半導体不足緩和によるOEM需要増 原材料価格高騰の継続に対して複数のOEMとの販売価格改定交渉が妥結 	<ul style="list-style-type: none"> 米国一部工場での設備故障による一時的な生産性悪化および追加費用の発生 米国の労働需給逼迫による生産性悪化緩和進まず 一部プログラムでOEM生産制約解消の遅延

*1 2022年8月8日公表 *2 売値・構成差 + 原燃料単価差

◆ ヘルスケアセグメント [前年度対比、前回見通し*1対比]

	(億円)					(億円)	
	21年度実績*2	22年度見通し		差異	22年度	前回見通し	
		上期	下期		計	前回見通し*1	との差異
売上高	1,751	787	763	1,550	-201	0	
EBITDA	696	277	223	500	-196	-25	
減価償却費	263	130	135	265	+2	0	
営業利益	433	147	88	235	-198	-25	
営業利益ROIC	21%	16%	10%	12%	-9%	-1%	

< EBITDA増減内訳 >



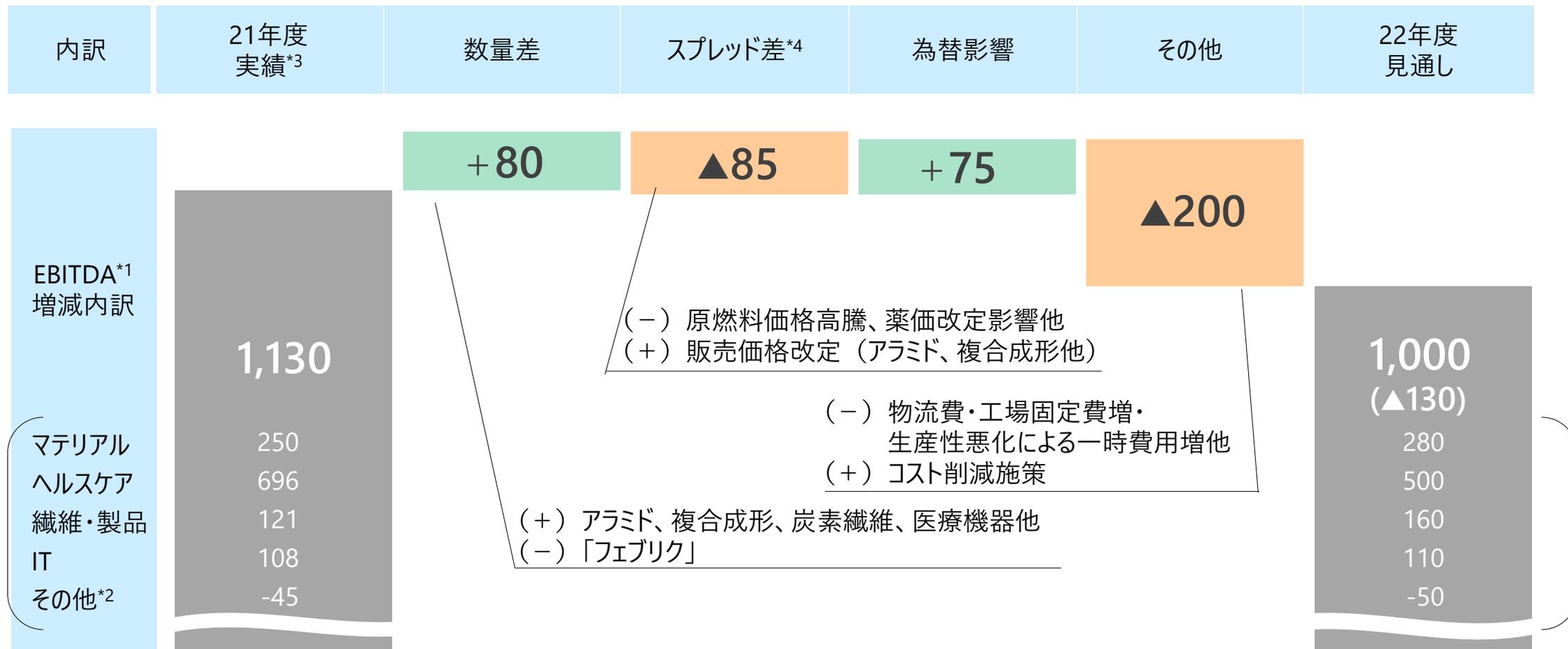
営業利益見通しの方向感				
サブセグメント	前年度対比		前回見通し*1対比	
医薬・在宅医療	→	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減、薬価改定影響 医療機器の販売量・レンタル台数増 医薬・在宅医療の統合推進 	→	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品「フェブリク」後発品への想定を上回るスピードでの切り替え
新事業	→	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアの基盤構築継続 機能性食品の製品ラインナップ拡充 	→	<ul style="list-style-type: none"> 前回見通しから変化なし

*1 2022年8月8日公表

*2 2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

2022年度業績見通し EBITDA増減要因（前年度対比）

- マテリアルでの増販やコスト削減施策の発現および為替影響による収益押し上げ効果はあるものの、ヘルスケアの医薬品「フェブリク」の後発品参入影響やマテリアルでの労働需給逼迫による生産性悪化影響、原燃料価格高騰影響等により、EBITDA減少を見込む
(億円)



*1 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出 *2 その他は「その他」および「消去又は全社」の合計としている

*3 2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

*4 売値・構成差 + 原燃料単価差

営業利益予想下方修正の主要因

事業	前回見通し*1		今回見通し	
	1Q実績	2Q以降の見通し	2Q実績及び3Q以降の見通し	修正方向
アラミド	<ul style="list-style-type: none"> 生産工程不調 	<ul style="list-style-type: none"> 2Q以降は生産が正常化 為替影響と採算性の改善でQごとに回復 	<ul style="list-style-type: none"> 労働需給引き締めやサプライヤーの主要消耗品供給制約等による生産性悪化で在庫が逼迫 想定以上の天然ガス価格高騰により採算性が悪化 	下方修正
樹脂	<ul style="list-style-type: none"> 中国ロックダウン 	<ul style="list-style-type: none"> 1Qの挽回困難で戻りも鈍い 	<ul style="list-style-type: none"> 中国経済減速による需要低迷 	下方修正
炭素繊維	<ul style="list-style-type: none"> 販売好調 	<ul style="list-style-type: none"> 販売量がさらに回復 	<ul style="list-style-type: none"> 前回見通し以上に航空機向け増加 為替影響は前回見通し以上の効果発現を予想 	上方修正
複合成形材料	<ul style="list-style-type: none"> 直前4Qから中堅のOEMとの価格交渉が決着 	<ul style="list-style-type: none"> 2Qでより広範なOEMと4月に遡及しての販売価格改定 OEMが生産挽回で1Q販売落ち込みをカバー 労働需給逼迫は徐々に緩和 	<ul style="list-style-type: none"> 販売価格改定は前回見通しを達成の見込み（原材料価格高騰の8割程度をカバー） 一部プログラムでOEM生産制約解消の遅延 2Qで一部工場での設備故障が発生し、生産性が大幅に悪化。3Q以降で修繕実施による改善を見込む 労働需給逼迫による生産性悪化が継続 	下方修正
電池部材	<ul style="list-style-type: none"> 販売好調 	<ul style="list-style-type: none"> 販売好調が継続 	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォン向けLIB*2用セパレータの販売好調が継続 	上方修正
ヘルスケア		<ul style="list-style-type: none"> 「フェブリク」後発品への切り替え進む 	<ul style="list-style-type: none"> 「フェブリク」後発品への想定を上回るスピードでの切り替え 	下方修正

*1 2022年8月8日公表 *2 リチウムイオン二次電池

■ ポジティブに推移している事業があるものの、改善施策の未達やリスクの発現で、営業利益予想を大幅に下方修正

各事業の収益改善に向けた取り組み

事業	収益改善に向けた取り組み内容
アラミド	<ul style="list-style-type: none"> • 労働力不足への対応（臨時従業員の雇用等） • 工程不調原因である消耗品の安定調達 • 天然ガス価格高騰継続の場合の販売価格改定継続 • 原料調達・生産の分散化を検討
複合成形材料	<ul style="list-style-type: none"> • 故障設備の早期復旧と安定操業 • 内製化・自動化のさらなる推進・効果拡大 • グローバルの各拠点について、売却を含む選択と集中を検討 • 低採算プログラムからの撤退 • 本部内人事を刷新し、現地マネジメント力を強化
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> • 強みのある整形領域での新薬の上市・販売による収益化 • 糖尿病治療剤のDPP-4阻害剤領域におけるシェアアップ • 独自の事業基盤を活用したヘルスケアサービスの拡大

■ 各事業の下方修正の主要因への中期的な対応策については、より具体的な収益改善策として2月に公表予定

今中期計画のレビューと次期中期経営計画について（2023年2月公表予定）

- 「中期経営計画2020-2022」で目指してきた、「成長基盤の確立」は不十分
 - 「Strategic Focus」（将来の収益源育成分野）
 - ✓ 自動車向け複合成形材料の新規プログラム獲得によるプレゼンス強化、航空機向け炭素繊維中間材料の開発と北米炭素繊維生産拠点構築、地域密着型総合ヘルスケアサービス事業展開への積極投資を行い、一定の成果。しかしながら、利益への貢献が伴わず、当初想定から大きく乖離
 - 「Profitable Growth」（利益ある成長分野）
 - ✓ アラミド事業は旺盛な需要に応える生産体制確立の遅れ、ヘルスケアは糖尿病治療剤の導入を行い収益の底上げと事業基盤の強化を実現したものの、新薬立ち上げの遅れ等があり、想定から乖離。早急に収益構造の立て直しが必要な状況
- 次期中期期間はStrategic Focus分野の軌道修正も含め、戦略の大幅な見直しが避けられない状況
- よって、2023年2月は、目の前の収益悪化を食い止めることを最優先課題と捉え、抜本的対策を含む今後の計画を説明する

3. 参考資料

開示セグメントの変更

帝人ナカシマメディカル(株)、帝人メディカルテクノロジー(株)を中心に展開している埋込型医療機器事業について、イノベーションを生み出していく新規事業と位置づけ、全社的・長期的視点で育成・強化を図るため、セグメント区分を変更

～2021年度

セグメント	事業
マテリアル	高機能材料
	複合成形材料
ヘルスケア	医薬品・在宅医療
	ヘルスケア新事業
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px;">埋込型 医療機器</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px;">機能性 食品他</div> </div>
繊維・製品	繊維・製品
IT	IT
その他	その他 (J-TEC含む)

2022年度～

事業	セグメント
高機能材料	マテリアル
複合成形材料	
医薬品・在宅医療	ヘルスケア
ヘルスケア新事業	
機能性食品他	
繊維・製品	繊維・製品
IT	IT
その他 (J-TEC含む)	その他
埋込型医療機器	

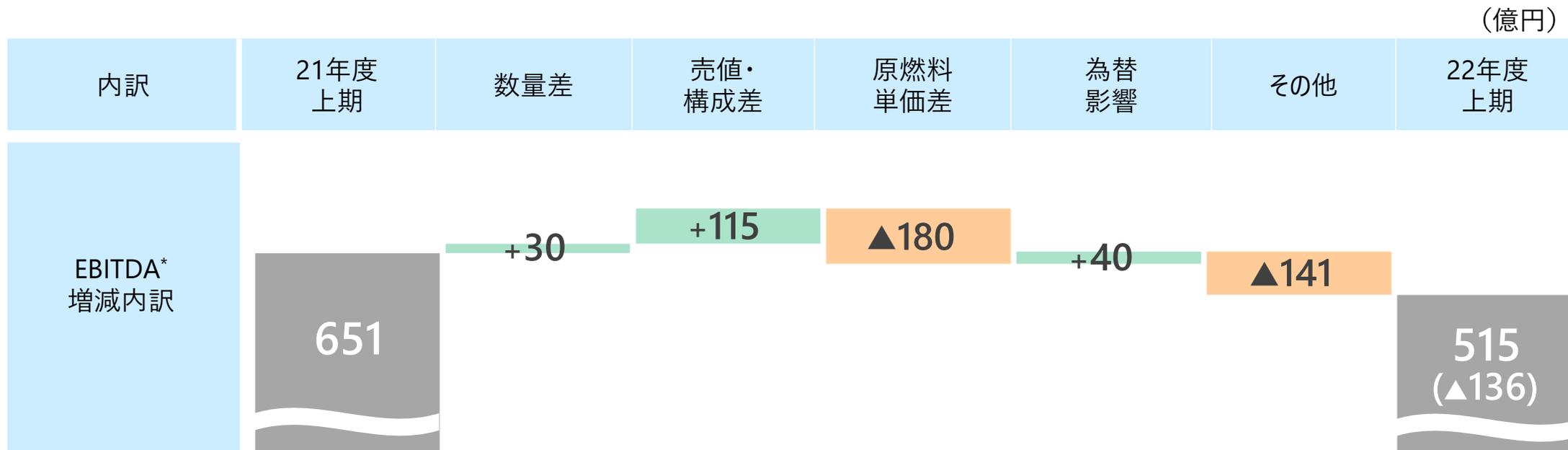
定常的な損益影響要因

セグメント	主な特徴
マテリアル	<ul style="list-style-type: none">アラミド大型定修は3年に一度（次回は2024年度1Q）樹脂は毎年2Q、3Qに定修
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none">4Qに経費集中傾向
繊維・製品	<ul style="list-style-type: none">衣料関係は3Qが秋冬物・4Qが春物シーズン
IT	<ul style="list-style-type: none">2Q、4Qはシステム検収時期で納入増

◆ EBITDA*増減（連結合計） [前年同期対比]

（億円）

	21年度 上期	22年度 上期	前年同期 との差異	増減率
売上高	4,534	5,105	+571	+12.6%
EBITDA*	651	515	-136	-20.9%
減価償却費	336	372	+36	+10.8%
営業利益	315	142	-172	-54.8%
営業利益ROIC	7.9%	3.4%	-4.6%	-



* 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 [前年同四半期対比、直前四半期対比]

(億円)

	21年度*					22年度		差異	差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	22/2Q -21/2Q	22/2Q -22/1Q
売上高									
高機能材料	693	703	663	675	2,735	699	812	+109	+113
複合成形材料	264	248	274	330	1,116	375	440	+192	+65
マテリアル 計	958	950	937	1,006	3,851	1,074	1,252	+301	+178
ヘルスケア	440	430	466	415	1,751	436	351	-79	-85
繊維・製品	655	680	734	756	2,825	736	848	+168	+112
IT	135	137	126	139	538	129	144	+6	+15
その他	71	77	73	75	296	63	72	-6	+8
合計	2,259	2,275	2,336	2,390	9,261	2,438	2,666	+391	+228
営業利益									
マテリアル	21	12	-81	-9	-57	-7	-37	-49	-30
ヘルスケア	133	109	134	57	433	108	39	-70	-69
繊維・製品	20	16	9	11	56	19	34	+19	+16
IT	21	27	21	29	97	15	20	-7	+4
その他	-4	-7	-2	-9	-23	-11	-8	-1	+3
消去又は全社	-19	-13	-14	-19	-64	-15	-12	+1	+3
合計	173	142	67	60	442	108	35	-107	-73

*2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。
それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

◆ 連結損益計算書 四半期推移

	21年度				22年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	2,259	2,275	2,336	2,390	2,438	2,666
売上原価	1,550	1,587	1,699	1,714	1,749	2,040
売上総利益	709	688	638	676	689	626
販管費	536	546	571	616	581	592
営業利益	173	142	67	60	108	35
営業外損益	12	-0	20	23	35	22
（内 金融収支）	-2	-5	-4	-5	-4	-11
（内 持分法投資損益）	15	14	14	12	12	13
経常利益	184	142	87	84	143	57
特別損益	-19	34	8	-78	2	-4
税金等調整前四半期純利益	165	176	94	6	145	53
法人税等	61	51	45	24	67	43
非支配株主に帰属する 四半期純利益	7	7	7	8	5	7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	98	118	43	-27	73	3

(億円)

◆ 連結貸借対照表 四半期推移

	21年度				22年度	
	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末
資産						
流動資産	5,389	5,517	5,537	5,720	6,030	6,331
固定資産	6,461	6,171	6,220	6,356	6,623	6,720
合計	11,850	11,688	11,757	12,076	12,653	13,051
負債・純資産						
負債	7,439	7,182	7,209	7,428	7,854	8,222
(内 有利子負債)	5,029	4,828	4,729	4,852	5,178	5,447
純資産	4,411	4,506	4,548	4,648	4,799	4,829
合計	11,850	11,688	11,757	12,076	12,653	13,051

(億円)

◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比]

(億円)

	21年度実績*			22年度見通し			差異		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
売上高									
高機能材料	1,396	1,339	2,735	1,511	1,589	3,100	+115	+250	+365
複合成形材料	512	604	1,116	814	936	1,750	+302	+332	+634
マテリアル 計	1,908	1,943	3,851	2,326	2,524	4,850	+417	+582	+999
ヘルスケア	869	882	1,751	787	763	1,550	-82	-119	-201
繊維・製品	1,335	1,489	2,825	1,584	1,616	3,200	+249	+126	+375
IT	273	265	538	273	327	600	-0	+63	+62
その他	148	148	296	135	165	300	-13	+17	+4
合計	4,534	4,727	9,261	5,105	5,395	10,500	+571	+669	+1,239
営業利益									
マテリアル	33	-90	-57	-45	-40	-85	-77	+49	-28
ヘルスケア	242	191	433	147	88	235	-95	-102	-198
繊維・製品	36	21	56	53	42	95	+17	+22	+39
IT	48	49	97	35	65	100	-13	+16	+3
その他	-12	-11	-23	-19	-11	-30	-8	+1	-7
消去又は全社	-32	-32	-64	-28	-37	-65	+4	-5	-1
合計	315	127	442	142	108	250	-172	-20	-192

* 2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。
それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

◆ セグメント別経営指標 [前年度対比、前回見通し*1対比]

	(億円)			(億円)	
	21年度 実績*2	22年度 見通し	差異	22年度 前回見通し*1	前回見通し との差異
EBITDA*3					
マテリアル	250	280	+30	520	-240
ヘルスケア	696	500	-196	525	-25
繊維・製品	121	160	+39	150	+10
IT	108	110	+2	110	0
その他	10	5	-5	5	0
消去又は全社	-55	-55	+0	-60	+5
合計	1,130	1,000	-130	1,250	-250
営業利益ROIC*4					
マテリアル	-2%	-2%	-0%	4%	-6%
ヘルスケア	21%*5	12%	-9%	13%	-1%
繊維・製品	4%	7%	+3%	6%	+1%
IT	61%	58%	-3%	58%	0%
合計	5.5%*5	3%	-3%	6%	-3%

*1 2022年8月8日公表

*2 2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

*3 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出

4 「営業利益 ÷ 期首・期末平均投下資本」にて算出

（*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金）

*5 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

◆ 主要経営指標推移

	17年度 実績 ^{*6}	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 見通し
ROE ^{*1}	12.5%	11.2%	6.3%	-1.7%	5.5%	4%
営業利益ROIC ^{*2}	11.2%	9.3%	8.7%	8.6%	5.5% ^{*7}	3%
EBITDA ^{*3} (億円)	1,155	1,076	1,072	1,068	1,130	1,000
1株当たり当期純利益 (円)	231.3	232.4	131.6	-34.7	120.6	83.2
1株当たり配当金 (円)	60	70 [*]	60	50	55	40
*100周年記念配当 10円/株を含む						
総資産 (億円)	9,820	10,207	10,042	10,411	12,076	12,800
有利子負債 (億円)	3,442	3,692	3,819	3,800	4,852	5,300
D/Eレシオ ^{*4}	0.88	0.90	0.97	0.94	1.10	1.1
D/Eレシオ (資本性調整後) ^{*5}	-	-	-	-	0.97	1.0
自己資本比率	40.0%	40.2%	39.3%	39.0%	36.4%	36%

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本^{}」にて算出 (*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

*5 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

*6 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を18年度から適用しており、17年度実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

*7 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

◆ Teijin Automotive Technologies (US) 外部環境動向と収益改善施策の進捗状況

外部環境動向	2021年度実績	2022年度前回見通し*2	2022年度見通し
原材料価格高騰	期初より年度末まで高騰が継続	1Qにて上昇した価格が継続の見通し	前回見通しから変化なし
半導体不足	2Qから年度末まで影響が継続	年度末に向かって緩やかに正常化する見通し	一部プログラムでOEMの生産制約解消遅延
米国労働需給逼迫	期初より年度末まで逼迫の状況が継続	年度前半に労働需給の逼迫が緩和する見通し	<ul style="list-style-type: none"> 労働需給逼迫が年度末まで継続 米国一部工場での設備故障による一時的な生産性悪化および追加費用の発生
収益改善施策	2021年度実績	2022年度前回見通し*2	2022年度見通し
値上げ (原材料価格の転嫁)	4Qより中堅OEM中心に販売価格改定	大手OEMに対する販売価格改定	前回見通しから変化なし
新プログラムの立ち上げ	4Qにテキサス新工場で大規模新プログラムを立ち上げ(立上コストもあり業績への貢献は限定的)	<ul style="list-style-type: none"> テキサス新工場の通期での高稼働化 新規大規模プログラムの立ち上げを計画 	前回見通しから変化なし
成形工程の自動化 (必要人員の削減*1、生産性向上)	4Qにテキサス工場および主要工場成形工程自動化設備導入	成形工程自動化設備導入の横展開加速(年間約10億円のコスト削減効果を想定)	前回見通しから変化なし
塗装工程の内製化 (外注比コスト削減、品質・生産性向上)	プロジェクトが数か月遅延し効果発現せず	2Qで主要工場の塗装ラインの内製化完了(年間約10億円のコスト削減効果を想定)	人員不足により内製化完了が遅延(3Qより100%効果発現想定)

*1 成形工程直接人員を最大5割削減可能と想定 *2 2022年8月8日公表

◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	21年度					22年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	上期
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	96	97	106	89	388	87	17	104
糖尿病治療剤四剤合計		75	70	74	56	275	69	62	132
ネシーナ®	2型糖尿病治療剤	36	33	35	27	131	34	31	64
イニシク®	2型糖尿病治療剤（配合剤）	21	20	21	17	79	20	18	39
リオベル®	2型糖尿病治療剤（配合剤）	12	10	11	8	41	10	9	19
ザファテック®	2型糖尿病治療剤	7	6	7	5	25	5	5	10
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	20	20	21	17	78	18	18	36
ソマチユリン®*2	先端巨大症・下垂体性巨人症、甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍、膵・消化管神経内分泌腫瘍治療剤	13	13	15	12	54	14	14	28
ベニロン®	重症感染症治療剤	12	12	13	9	46	10	11	21
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	5	6	4	20	5	5	9
ゼオマイン®*3	上下肢痙縮治療剤	0.5	2	4	4	10	4	4	9
ムコソルバン®	去痰剤	5	5	7	5	22	4	4	9

*1 ボナロン®/Bonalon® はNV Organon(蘭)の登録商標です *2 ソマチユリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏)の登録商標です

*3 ゼオマイン®/Xeomin®は、Merz Pharma GmbH & Co, KGaA (独)の登録商標です

◆ 非財務情報 ESG外部評価

GPIFの5つのESG指数全ての構成銘柄に採用されています



FTSE Blossom
Japan Index

2022 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



2022 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

(注) MSCIインデックスへの帝人株式会社の組み入れおよび帝人株式会社によるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による帝人株式会社へのスポンサーシップ・宣伝・販売促進を企図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびMSCIインデックスの名称ならびにロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

SRI（社会的責任投資）インデックスに組み入れられています

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA



FTSE4Good



MSCI ESG格付評価において最上位の「AAA」を獲得しました

MSCI
ESG RATINGS



CCC B BB BBB A AA **AAA**

日経SDGs経営調査で総合ランキング35位の高い評価を得ています

**NIKKEI
SDGs**
経営調査 2021 ★★★★★

- ・ 4分野全てにおいて「S以上」の高評価
- ・ 「ガバナンス」は全業界の中で偏差値70以上の上位10社に

ESGへの取り組みが優れている企業として、2つの国内プログラムに選定されています

「なでしこ」女性活躍推進

健康経営推進



TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions